

生態系を知ろう

LESSON 02

北方系・大陸系遺存植物が阿蘇の草原に生育する理由^{わけ}

阿蘇の草原生態系の特性は、北方系の植物や大陸系遺存植物を多く含み多様性に富んでいることです。

これは、阿蘇の地形が高原状で比較的冷涼な気候であること、火山で成立したこと、古くから野焼き・放牧・採草が繰り返され行われたために人為的に遷移が妨げられ草原が維持されてきたこと、さらに外輪山上の穏やかな傾斜地に小規模ながら湿地があることなどが、大陸系の植物などの生育に適したためと考えられます。

また、阿蘇は森林と草原の同方の自然環境に恵まれていることから、豊富な種類の鳥類（150種）やチョウ類（105種）が見られ、特に草原性チョウ類の宝庫と言われています。

※遷移：時間の経過とともに植物群集の構成種が変化し、他の群集に置き換わる現象。阿蘇では、草原を放置しておくことで遷移が進み、森林になっていく。

●大陸系遺存植物とは

氷河期に中国大陸や朝鮮半島と陸続きだった頃、分布を拡大してきた植物



ヒゴタイ



ツクシマツモト

●北方系植物とは

主に北日本に分布し、阿蘇のあたりが南限となるような植物



イブキトラノオ



サクラソウ

LESSON 03

効率的な管理手法で草原生態系を守る

阿蘇の草原には希少種を含むたくさんの植物や動物、昆虫が生息しています。草原の減少や変容により、その生息・生育環境の保護も重要な課題になっています。多様な草原生態系を維持していくためには、草原タイプの違いや管理方法を知り、保全対策を考えていくことが重要です。



草刈り後の様子（波野の調査区・7月）

インタビュー 草原再生への期待



今江正知氏

元東横大学教授 阿蘇草原再生協議会委員 草原管理手法に関する検討部会座長

阿蘇の草原は、長年にわたる人々の営みによって維持されてきました。この重みをしっかりと受け止め、草原再生においては農業と畜産業の継続・発展を目指すことが大切です。というのも、多様なタイプの草原は農業・畜産業によって維持されてきたからです。そして、こうした草原を保全していくには、まず現状をきちんと把握することが必要です。また、草を利用することが草

原の生物多様性を維持する基礎であることから、有機農業やガーデニング用の堆肥づくり、茅葺き屋根の観光施設建設など、草の需要拡大をはかることも重要です。

阿蘇を訪れた人々は、草原を見てその広大さにびっくりします。そして、人と自然との長い営みに感銘を覚えますが、我々も一緒にびっくりし、あまり考えずにいた草原の価値を改めて考えてみましょう。